

御礼ならびに事業報告



2008年度（社）人吉青年会議所
第50代理事長 田中 聡

原点 回 帰
～ 50年間のJAYCEEに感謝！誇り
を持って熱き思いを未来へ～

人吉JCの運動を広く周知させ、多くの郡市民にアピールするための情報発信を行う。

責任世代として地域（まち）の課題に勇気を持って取り組み、誇りある地域（まち）を創造する。

子ども達を国や郷土に誇りを持ち、思いやりの心持てる人材へと育成する。

地域のリーダーとしてあらゆる能力を高めるための自己改革を目指す。

明るく豊かな社会を目指すために、一人でも多くの仲間を募る。

創立50周年を通して歴史と伝統を見つめ直し、更なる世代へと継承する。

より公益性を重視した事業展開を行う。

【人吉JCの運動を広く周知させ、多くの郡市民にアピールするための情報発信を行う】

人吉JCの活動・運動の情報発信の手段として、本年はホームページの作成を行いました。日頃の活動内容は勿論、事業開催の告知や事業報告、更には事業を行なった際のアンケート等をまとめ人吉JCの運動を発信していきました。しかし、更新の頻度や見易さについては、今後の課題として次年度へ引き継いでいきたいと考えます。

特に本年度は創立50周年記念事業や公開例会、一般の方を対象にした事業も数多く実施したことにより、マスコミ関係者より記事として取上げていただいた件数が例年になく多かったようで、本年度は郡市民に対し、人吉JCの存在

や活動内容が広くアピールできたのではないかと感じております。

【責任世代として地域（まち）の課題に勇気を持って取り組み、誇りある地域（まち）を創造する】

本年度は、誇りある地域（まち）を創造するために、広域団体として人吉球磨全体を視野に入れ地域が抱える問題を再認識し、今後の市町村のあり方について考えました。問題提起だけに終わらずに1年間で結果を出すため、地域ビジョン委員会を中心に事業を実施しました。

6月度例会アワーを利用しての「球磨地域のあり方を考える勉強会」。市町村合併という球磨地域が抱える問題に対して、球磨地域振興局の協力のもと会員に対し勉強会を実施しました。7月の一般公開例会「球磨地域のあり方を考える勉強会」では、各市町村、議員、各種団体を交えてあさぎり町にて勉強会を実施しました。そして9月、あさぎり町せきれい館での、「球磨地域のあり方を考えるシンポジウム」では、県立大学桑原教授より基調講演をいただき、市町村合併の必要性及び将来の課題についてパネルディスカッションを行いました。今回の事業を通じ人吉JCが市町村の課題に積極的にかかわることで、地域住民に対し、これからの球磨地域がどうあるべきかを考える機会を作ることができましたし、今後の引き続きこの問題に取り組まなければならないと感じました。

また、10月には「人吉市長ローカル・マニフェスト進捗報告会」を開催しました。昨年の人吉市長選挙において当選された人吉市長のマニフェストに対し、1年を経過した時点での進捗状況を確認できました。また、今回の進捗報告会は、マニフェストサイクルに基き次年度の検証大会へ向けての期待の大きさを感じましたし、多くの関係諸団体を交えての検証大会になることを期待しています。

【子ども達を国や郷土に誇りを持ち、思いやりの心持てる人材へと育成する】

将来を担ってもらいたい子どもたちを対象として、11月

に昨年に引き続き相良藩子ども塾、そして年間として「ウンスンカルタを子どもたちに」を実施しました。青少年育成委員会が中心となって年間を通じて子どもたちに接してもらい郷土の歴史・伝統・文化を伝え続けた1年でありました。

相良藩子ども塾では、本年度は「肥薩線を知ろう」と題し、予定人数を大きく上回る募集がありその対応に苦慮しましたが、地域の子どもたちに肥薩線の歴史を伝え、肥薩線開通100周年実行委員会と協力して副読本を作成して、地域の小学校へ今後の教材への活用の意味で配布しました。この事業で貴重な「産業遺産」の価値や重要性を知ってもらうことができましたし、これによって改めて「郷土愛」や「ふるさとへの誇り」を確認してもらえたのではないのでしょうか。

また、「ウンスンカルタを子どもたちに」では県無形文化財で人吉球磨だけに残存するウンスンカルタをしっかりと継承していくためにも、各小学校に必須クラブへ取り入れてもらうように働きかけを行い、市内の4つの小学校で取り入れて頂きました。授業の際には委員会がメンバーが手分けして指導を行い、「鍛冶屋町通りの街並み保存と活性化を計る会」にも協力を依頼して多くの関係者のもと事業が実施できました。子どもたちも遊びの中から伝統文化に触れるいい機会ではなかったかと思います。

【地域のリーダーとしてあらゆる能力を高めるための自己改革を目指す】

「自分たちの地域（まち）は自分たちでつくる」という気概を持って行動していく上で、個々のスキルを上げることは非常に重要なことです。

9月度学習例会「企業再生と再編の手法」では、講師に企業の再生及び再建を多く手がけておられる本松衛氏をお招きし、事業再生、再編の手法についての事例等の講演をいただき、JC活動の礎ともいえる企業の運営強化が地域の活性化に繋がる例会を開催しました。

11月度例会「未来のリーダー達へ」においては、今後の

JC活動について地域の将来を担うリーダーとしての高い志を持ち、未来に向かって“明るい豊かな社会”の実現を目指し運動意識を高めるための研修を行いました。

そして6月に実施しました創立50周年記念講演においては、講師に日本JC第8代会頭、茶道裏千家前家元千玄室大宗匠を招いての講演会を実施しました。講演の中での戦争時の話や、海外での体験談をお話いただき、先人の大切な命によって「生かされている」という感謝の心の話や、「親と子」ではなく、「親の子・子の親」という考え方の話を頂きました。

【明るい豊かな社会を目指すために、一人でも多くの仲間を募る】

JCの活動、運営していく上で会員の拡大は非常に重要な課題です。本年度も様々な活動を通じてJCの理解を図り、仲間づくり推進会議を中心に会員の増強に努めてきましたが、思うどおりの結果は出すことができませんでした。しかし、本年度は会員の拡大と同時に球磨地域に存在する多くの団体に対してもJCの運動を伝え共に行動していくことも心がけてきました。人吉の団体ではなく、広域団体であることを球磨地域に伝えるために、例会・事業等も球磨郡で実施したり、球磨郡の団体にも我々の活動も伝わったのではないかと感じます。

また、行政関係と協力した事業もあり、体外的な事業については、各種団体、郡市民を対象に事業を実施し、JCの存在意義を示した1年でありました。

【創立50周年を通して歴史と伝統を見つめ直し、更なる世代へと継承する】

1959年3月18日、球磨地域においても志高き青年達の勇気ある行動により、全国で154番目の青年会議所として人吉JCは誕生しました。これからのJCを考えるため、先輩方が築き上げてこられた歴史と伝統を振り返り、これまでの事業を精査し、もう一度「明るい豊かな社会を築き上げる」というJCの原点に立ち、会員一人ひとりが今後の

人吉ＪＣの存在意義を再度確認し、ＪＣの存在価値を高めた１年ではなかったでしょうか。創立５０周年に関しては、創立５０周年統括委員会を中心に全メンバーで取り組みました。

３月１８日に実施した人吉ＪＣ誕生例会では、歴代理事長をお呼びして人吉ＪＣの歴史を改めて学ぶ機会が得られ人吉ＪＣの歴史や伝統の深さや、先輩方のＪＣに対する思いも十分に伝わってきた例会でした。

そして、６月７日に行った式典・懇親会においては、多くの来賓、ＯＢ、シニア、そして各地青年会議所のメンバーをお招きして盛会のうちに実施することができました。

【より公益性を重視した事業展開を行う】

本年度は、公益法人制度改革に伴う社団法人としての会員の意識改革と共に、より公益性を重視した事業を積極的に実施しました。対外的な事業は勿論、今までは会員のみで行っていた例会に関しても公開例会にしたり、計画段階で公益性をふまえた事業計画を立て実行しました。

次年度以降は、公益か一般のどちらかを選択しなければなりません。ＪＣの存在意義を再度確認し、広域の団体として「明るい豊かな社会の実現」に邁進していく事を期待いたします。

【さいごに】

２００８年度は人吉ＪＣにとっても私にとっても特別な一年でありました。日を追う毎に人吉ＪＣの歴史を感じ、同時にその重みを感じた一年でありました。メンバー全員の支え無しには乗り越えられなかった一年でした。会員一人ひとりが自身の役割を認識し、高い志と行動力を持って活動し、ＪＣ運動を展開しました。また、我々の運動に理解をいただき、協力いただきました全ての関係諸団体の皆様には、本当に感謝しております。引き続きのご支援も併せてお願い申し上げます。

ＪＣ運動は次年度以降も継続して展開されます。本年度の運動が球磨地域にどのような結果をもたらしたのか、ど

のような効果があったのか、直ぐには結果出ずとも将来にわたり必ず効果が表れるものであると信じています。我々の運動は確かに微力かもしれませんが。でも決して無力ではないはずです。「明るい豊かな社会の実現」を目指し継続して運動をし続けることが最も重要であるのではないでしょうか。

２００９年度も次の節目の年へ向けて新たな一歩を踏み出します。人吉ＪＣの原点を忘れず、我々の理念を信じ、迷うことなく運動を展開されることを祈念しまして２００８年度の御礼とさせていただきます。１年間本当にありがとうございました。